

# 障害を持つ人達のための パソコン通信セミナー

竹中 ナミ

昨年11月13日、27日（いずれも土曜日）の両日、プロップ・ステーション主催のパソコン通信セミナーを開催しました。

開催にあたり一番悩んだのは場所の問題です。交通至便で車いすの人が利用でき、コンピュータと電話回線が有って、なおかつ無料で使わせて戴ける場所・・・そんな虫の良い希望を叶えてくれる所は無いものかと大阪市内の公的な建物や企業にアタックしてみましたが、どこも全てをクリアする事が出来ずあきらめかけていたところに、朝日新聞コミュニケーションホールが「使って下さい」と嬉しいお返事を下さいました。併せて、朝日新聞大阪厚生文化事業団もご後援を下さる事になり、新聞報道のご協力も戴いて無事、開催する事が出来ました。



「パソコンの音声装置について」柳原氏  
(左)に、回答をふられた「うめ吉」

また、講師に大阪大学助教授で工学博士（通信工学科）中野秀男先生と、株式会社クボタ素材事業部情報化推進プロジェクト課長補佐の柳原秀基氏をお迎えし、実施スタッフとして多くの企業エンジニアの皆様にもボランティアなお力添えを戴きました。

受講生募集の新聞記事への応募から、2日間で23人の障害を持つ方々にセミナーを受けて戴く事ができましたが、そのうち7人の方は聴覚に障害をお持ちでした。この7名の方々には大阪府難聴者協会のご協力でご要約筆記者が延べ6人公費派遣でお越し下さり、筆記した文字をテレビ画面に映し出す、という最新の機器でサポートして下さいました。

ご協力下さった皆様様に、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

セミナーは、前半の1時間が中野先生の講演、後半の2時間が柳原氏による実技実習という形で行われました。中野先生のお話のテーマは「パソコン通信の歴史と未来」で、OHPを駆使しての大変分かり易いものでした。障害を持つ人達にとってパソコン通信のコミュニケーション手段として、また情報発信や収集の手段としての有用性と、中野先生ご自身が携わっておられるインターネット（世界140カ国・180万台のコンピュータと





グループに別れて実習。ネクタイ姿が中野先生

接続している通信網)とプロップNETとの今後の連携の可能性など興味深いお話の数々に、受講生のみならずスタッフまでもが多くの事を学ばせて戴きました。特にインターネットを通じて刻々と取り込まれる通信衛星「ひまわり」の画像がOHPに映し出された時には、会場からどよめきが挙がりました。

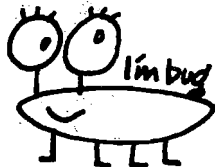
実技実習は柳原氏の講話の後、数名ずつのグループに分かれてそれぞれのグループにサブインストラクターが1~2名ずつ付く、という形で行われました。グループ毎に1台のパソコンを用意し会場からプロップNETにアクセスして、パソコン通信の楽しさを味わって戴きました。受講生にはセミナーの感想を一言ずつ特別に設置したボードに書き込んで戴きましたが、ワープロも使った事がないという方は、インストラクターに代筆(代タイプ?)を依頼してメッセージを送りました。

企業内で実際に社内NETを運営しておられる柳原氏の説明は、できるだけ専門用語を避けながらの丁寧なもので、大変好評でした。また事前に、講師のお二方が作成下さった力のこもったテキストを戴いておりましたので、充実した資料を受講生の皆さんにお渡しできたのが、事務局としては大変有り難い事でした。

1回3時間というセミナーなので、このセミナーを受けたからといって直ちにバリバリ通信ができる——というものではありませんが、入門編としてパソコン通信の楽しさと有効性は充分伝える事ができたと自負しています。

前述したように、会場の確保がなかなか難しい事ではありますが、公的な建物や、企業のセミナールームなどがお借りできないか今後も努力を続け、これからも機会が有るごとにこのようなセミナーを開催していきたいと思っています。

広範な皆様のご協力を、何卒よろしく願い申しあげます。



# PROP PRESS

享月 日 新 聞 1993年(平成5年)11月17日 水曜日

## 障害者のセミナー

朝日新聞社アサコム

障害者の社会参加を広げ「プ・ステーション」(竹中  
 ため「パソコン通信セ ナミ代表)によると、障害  
 ミナー」(朝日新聞厚生文 者がパソコン通信を使つて  
 化事業団後援)がこのほ とは、距離のハンディなど  
 ど、北区中之島の朝日新聞 の克服に役立つが、現状で  
 社一階のアサコムで始まっ は交通事情やビルの設備の  
 た。この日は、車いすの五 状態から、こうしたセミナ  
 人や聴覚障害者三人ら計十 ーに参加することも難し  
 二人が参加した。二十七日 い、という。  
 にも開かれる。  
 主催の市民団体「プロッ 講師の中野秀男阪大助教  
 授(通信工学)は「障害者

## パソコン通信で社会参加

でパソコンを使う人が少な  
 いため、機器自体が高額に  
 なり、障害の状態に合った  
 入出力機器の技術開発が遅  
 れている。パソコンネット  
 を使えば、自治体や企業に  
 そろした希望を伝えるこ  
 ともできる」と呼びかけ  
 た。

参加者は手話を交えて説  
 明を受けた後、ボランティア  
 アのインストラクターに教  
 えられながらパソコンを操  
 作していた。

竹中さんは「会場探しも  
 大変でした。通信機器メー  
 カーなどもまわったが、交  
 通が便利で、車いすが容易  
 に入れる場所、パソコン  
 通信ができる機器がそろっ  
 ているのは他になかった」と  
 話している。



体に障害のある人たちを対象に開かれたパソコン通信講座 北区の朝日新聞大阪本社で

